

第135回 日商簿記検定試験 3級 一商業簿記一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第1問

- 現金過不足の問題である。不足額であるため、現金過不足勘定は借方残になっていることに注意すること。また、原因不明部分の金額は雑損又は雑益で処理する。
- 手形の割引に関する問題である。為替手形であるが、当店は受取人であるため、受取手形勘定で処理されている。割引料は手形売却損で処理する。
- 備品の売却に関する問題である。期首に処分しているため期中の減価償却費の計上は不要である。よって、帳簿価額（取得原価－減価償却累計額）と売却代金との差額が固定資産売却損益となる。また、未収の代金は商品の販売代金ではないため、未収金勘定で処理する。
固定資産売却損（¥200,000－¥144,000）－¥50,000＝¥6,000
- 固定資産税は税金であるため、租税公課勘定で処理する。また、店主用の部分は個人費用であるため、引出金勘定で処理する。
- 当座借越に関する問題である。小切手の振り出しは当座預金の減少であるが、当座預金の残高を超過するため、その部分は当座借越勘定で処理する。

第2問

ある取引に関してどの補助簿に記帳されるかを問うた問題である。解答方法としては、まず仕訳を行い、次の記帳事由に照らし合わせて判断する方法が考えられる。

〔記帳事由〕

- 現金出納帳…現金の増減があったとき
- 当座預金出納帳…当座預金の増減があったとき
- 商品有高帳…商品の受入（仕入）又は払出（売上）があったとき
- 売掛金元帳（得意先元帳）…売掛金の増減があったとき
- 買掛金元帳（仕入先元帳）…買掛金の増減があったとき
- 仕入帳…商品の仕入れがあったとき
- 売上帳…商品の売上げがあったとき
- 受取手形記入帳…受取手形の増減があったとき
- 支払手形記入帳…支払手形の増減があったとき

〔各取引の仕訳〕

4日

(借) 仕入	400,000	(貸) 買掛金	400,000
--------	---------	---------	---------

9日

(借) 受取手形	175,000	(貸) 売上	375,000
(〃) 売掛金	200,000		
(〃) 発送費	5,000	(貸) 現金	5,000

(注) 商品の販売に要した発送費は、発送費勘定（費用）で処理する。

18日

(借) 買掛金	300,000	(貸) 支払手形	300,000
---------	---------	----------	---------

23日

(借) 当座預金	100,000	(貸) 売掛金	100,000
----------	---------	---------	---------

31日

(借) 買掛金	100,000	(貸) 売掛金	100,000
---------	---------	---------	---------

(注) 為替手形の振出時には、当店は支払手形勘定の増減は生じないことに注意すること。

第3問

合計残高試算表の問題であるが、1月中であることから、再振替仕訳も生じることに注意すること。また、与えられている資料は前期の貸借対照表であるため、前期の当期純利益は資本金勘定に含まれていることになる。

以下、各取引の仕訳である。

1日

(借) 支払保険料	4,000	(貸) 前払保険料	4,000
-----------	-------	-----------	-------

(注) 再振替仕訳であるため、前期の決算整理で繰り延べた費用を当期の費用とするために前払保険料勘定から支払保険料勘定へ振替える。また、その金額は貸借対照表に計上されているものとなる。

4日

(借) 前受金	25,000	(貸) 売上	70,000
(〃) 売掛金	45,000		

(注) 手付金は受取時には前受金勘定（負債）で処理されているため、実際に販売したときはそれを相殺する処理を行う。

7日

(借) 仕入	121,500	(貸) 当座預金	70,000
		(〃) 買掛金	50,000
		(〃) 現金	1,500

(注) 仕入れの際に要した引取運賃は、仕入原価に含まれる。

8日

(借) 買掛金	40,000	(貸) 支払手形	40,000
---------	--------	----------	--------

10日

(借) 受取手形	60,000	(貸) 売上	100,000
(〃) 売掛金	40,000		

(注) 為替手形の受け取りは、約束手形と同様に受取手形勘定で処理する。

15日

(借) 売上	5,000	(貸) 売掛金	5,000
--------	-------	---------	-------

17日

(借) 現金	33,000	(貸) 売買目的有価証券	30,000
		(〃) 有価証券売却益	3,000

(注) 有価証券の売却代金と売却原価との差額は有価証券売却益勘定（収益）で処理する。また、他人振り出しの小切手は、現金勘定で処理する。

21日

(借) 仕入	80,000	(貸) 受取手形	50,000
		(〃) 買掛金	30,000

(注) 約束手形の裏書譲渡については、受入時に受取手形勘定で処理されているため、それを減少させる処理を行う。

23日

(借) 現金	20,000	(貸) 前受金	20,000
--------	--------	---------	--------

(注) まだ商品の販売は行われていないため、この段階では売上¥100,000を計上することはできない。

25日

(借) 給料	50,000	(貸) 所得税預り金	5,000
		(〃) 当座預金	45,000

(注) 源泉徴収額については従業員から預り、後日当店が納付することとなるため、所得税預り金勘定（負債）で処理する。

28日

(借) 当座預金	150,000	(貸) 売掛金	150,000
----------	---------	---------	---------

29日

(借) 支払手形	50,000	(貸) 当座預金	50,000
----------	--------	----------	--------

31日

(借) 売買目的有価証券	20,600	(貸) 未払金	20,600
--------------	--------	---------	--------

(注) 有価証券の買入手数料も取得に要した費用であるため、有価証券の取得価額に含まれる。また、代金が未払いであるが、商品に係るものではないため、未払金勘定で処理する。

第4問 (勘定記入)

繰越商品勘定及び売上原価勘定の記入に関する問題である。本問について行うべき仕訳は次のとおりとなる。また、英米式決算であるため、資産である繰越商品勘定については翌期に係る前期繰越も記入すること。

1. 決算整理仕訳 (売上原価の計算)

(借) 売上原価	100,000	(貸) 繰越商品	100,000
(〃) 売上原価	2,900,000	(〃) 仕入	2,900,000
(〃) 繰越商品	200,000	(〃) 売上原価	200,000

2. 決算振替仕訳

(借) 損益	2,800,000	(貸) 売上原価	2,800,000
--------	-----------	----------	-----------

(注1) 売上原価の金額 $¥100,000 + ¥2,900,000 - ¥200,000 = ¥2,800,000$

(注2) 収益及び費用の残高は、決算振替仕訳によって損益勘定へ振替える。

第5問 (精算表)

1. 旅費の精算

(借) 旅費交通費	28,000	(貸) 仮払金	40,000
(〃) 現金	12,000		

2. 売掛金の貸倒れ

当期発生分であるため、貸倒引当金で補填するのではなく、貸倒損失勘定で処理する。

(借) 貸倒損失	50,000	(貸) 売掛金	50,000
----------	--------	---------	--------

3. 貸倒引当金の設定

上記2で売掛金が減少していることに注意すること。

(借) 貸倒引当金繰入	2,000	(貸) 貸倒引当金	2,000
-------------	-------	-----------	-------

(注) $(¥300,000 + ¥450,000 - ¥50,000) \times 2\% - ¥12,000$ (試算表の貸倒引当金) = ¥2,000

4. 売買目的有価証券

売買目的有価証券であるため、時価法により評価する。

(借) 有価証券評価損	2,000	(貸) 売買目的有価証券	2,000
-------------	-------	--------------	-------

(注) 有価証券評価損

- (1) 簿価 $¥98,000$ (A社株式) + $¥106,000$ (B社株式) + $¥108,000$ (C社社債) = $¥312,000$
- (2) 時価 $¥101,000$ (A社株式) + $¥100,000$ (B社株式) + $¥109,000$ (C社社債) = $¥310,000$
- (3) $¥312,000 - ¥310,000 = ¥2,000$

5. 売上原価

問題の指示に従い、仕入の行で計算を行う。

(借) 仕入	360,050	(貸) 繰越商品	360,050
(〃) 繰越商品	310,500	(〃) 仕入	310,500

6. 消耗品

期中において消耗品 (資産) で処理されているため、決算整理では使用分を消耗品費 (費用) へ振替える。

(借) 消耗品費	39,000	(貸) 消耗品	39,000
----------	--------	---------	--------

(注) $¥54,000$ (残高試算表の消耗品) - $¥15,000$ (未使用分) = $¥39,000$

7. 減価償却

(借) 減価償却費	117,000	(貸) 備品減価償却累計額	27,000
		(〃) 車両運搬具減価償却累計額	90,000

(注1) 備品減価償却費 $¥300,000 \times 0.9 \div 10$ 年 = $¥27,000$

(注2) 車両運搬具減価償却費 $¥500,000 \times 0.9 \div 5$ 年 = $¥90,000$

8. 受取手数料 (収益の見越し)

(借) 未取手数料	20,000	(貸) 受取手数料	20,000
-----------	--------	-----------	--------

9. 支払家賃

11月に支払った¥165,000のうち、翌年1月分について費用の繰延べを行う。

(借) 前払家賃	55,000	(貸) 支払家賃	55,000
----------	--------	----------	--------

(注) $¥165,000 \times 1/3$ (11月～翌1月) = $¥55,000$

10. 借入金

翌期の3月末に支払利息のうち、10月から12月までの3月分は当期分であることから、その部分について費用の見越しを行う。

(借) 支払利息	10,000	(貸) 未払利息	10,000
----------	--------	----------	--------

(注) $¥1,000,000$ (残高試算表の借入金) $\times 4\% \times 3/12 = ¥10,000$